



ELSEVIER

報道関係各位

2020年3月24日

エルゼビア・ジャパン株式会社

エルゼビアが、研究界における最新の国際ジェンダーレポートを発表

日本は女性著者の割合が対象国の中で最も低く、研究分野での男女格差は依然として存在

学術ジャーナル出版と情報分析を専門とするエルゼビアがこの度、「[ジェンダーの視点から見た研究者のキャリアパス](#)」（以下、「本レポート」という）と題する新しいレポートを発表しました。本レポートでは、研究分野における女性の参加は増加しているものの、論文数、論文引用数、助成金の授与者数、共同研究者数、男女格差に対する意識といった面で、依然として差が残っていることが示されています。

本レポートは、欧州連合および世界 15 の国と地域¹について、26 の分野における研究への男女の参加状況、キャリアパス、ジェンダー格差に対する意識について検証しています。エルゼビアの Scopus データと新しい手法に基づいた分析に加え、世界中の専門家からリサーチクエスト、分析手法などについての助言を受けて作成されました。

レポートによると、研究への参加における男女差は全体的に縮まりつつあります。調査が行われたほぼ全ての地域において、2014 年～2018 年の男性研究者 100 人に対する女性研究者の数は、1999 年～2003 年と比較し約 20 人分増加しました。しかし、地域、研究分野の間で依然として差が残っていることも判明しています。また、日本は調査対象国のうち、女性研究者の割合が最も低かったものの、男性研究者 100 人に対する女性研究者の数は 11 人から 18 人へと大幅に増加しました。

重要な所見：

- 論文を発表する女性著者の割合は増えているが、アルゼンチンを除くすべての国・研究分野で男性の数が女性の数を上回っている。2014-2018 年の間、アルゼンチンの女性研究者の割合は 51%、女性の割合が最も低い日本では 15%であった

¹本レポートの対象となる国または地域：米国、カナダ、メキシコ、アルゼンチン、ブラジル、EU28 か国、ポルトガル、スペイン、英国、フランス、オランダ、イタリア、ドイツ、デンマーク、オーストラリア、日本

- 女性は若手の論文著者に多く、また生活健康科学の分野、特に看護学や心理学などに最も多いが、対象国のうち日本だけは看護学や心理学においても女性よりも男性研究者の方が多い
- 男性は、論文発表歴の長い著者に占める比重が特に高く、また最終著者や責任著者を務めることが多い
- 一般的に男性研究者の方が論文発表数、国際的な論文発表、助成金授与、特許申請数において女性を上回っている。日本においても、男性の方が女性より論文発表率が高く、男性は女性の約 1.8 倍論文発表している。一方、FWCI（被引用数による研究のインパクトの指標）に関しては、男女の差はあまりない
- 平均的に、男性が筆頭著者を務める論文の方が、女性が筆頭著者である論文よりも引用インパクトが高い
- 男性も女性も、同性の研究者と共同研究を行う傾向がある
- 研究分野や地域にかかわらず、男性は女性よりも多くの共同著者がいる傾向があり、この傾向は論文発表歴が長い研究者で特に強い
- 研究界におけるジェンダー問題に対する研究者の意識は、現在の状況に関する認識、ジェンダー多様性をどの程度重要視しているかによって大きく異なる

本レポートは、エルゼビアによる3本目のジェンダーレポートであり、世界の研究者コミュニティの一員として、また国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）5の「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る」を支持する企業としての、ジェンダーの多様性とインクルージョンに対する幅広い貢献を改めて示すものです。

他にエルゼビアが近年実施している活動として、最大限公平でインクルーシブな手法を用いた研究の実施を支援するための、主要なプロセス、原則、およびシステムの改善が挙げられます。例えば、ジャーナルの編集委員会、査読者、学会のゲストスピーカー選択におけるジェンダー多様性の確保を積極的に推進しています。さらにエルゼビアは、自社ジャーナルのポートフォリオにおいて、ジェンダーに関する調査研究の報告やインクルーシブな言語の利用に関する編集方針、著者へのガイダンスを大きく拡充しました。

3月5日に、エルゼビアは、[インクルージョン&ダイバーシティ・アドバイザリー・ボード](#)の設置も発表しました。研究界の著名なリーダーが参加し、エルゼビアのCEO Kumsal Bayazit と、The Lancet 編集長の Richard Horton 氏が共同議長をつとめます。日本からは、日本科学技術振興機構副理事・日本学術会議副会長の渡辺美代子博士が設立メンバーとして参加しています。

多分野横断的かつ独立した組織である同アドバイザリー・ボードは、分野をまたいだインクルージョンと多様性を促進する持続的なソリューションを追求し、研究者コミュニティと連携して長期的かつ有意な変化を起こすために活動します。まず集中的に取り組む課題として、**女性の研究参加、および科学とキャリアパスにおけるジェンダーの課題**が挙げられます。具体的には、一定の基準、ベスト・プラクティス、エビデンスに基づいた取り組みを通して、どのように研究が行われるかの決定がバイアスなく堅固なものとなり、男女間の研究資金、査読、論文の発表およびキャリア機会に関する公平性を改善するために取り組んでいきます。

設立メンバー：

- Kumsal Bayazit : エルゼビア CEO、インクルージョン&ダイバーシティ・アドバイザリー・ボード共同議長
- Gary L. Darmstadt 博士：スタンフォード大学医学部母子保健学研究所副所長、新生児医学および発達医学教授
- Sarah Hawkes 教授：ジェンダー・国際健康センターディレクター、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン国際公衆衛生学教授
- Richard Horton 教授：The Lancet 編集長、LSHTM ロンドン・スクール・オブ・ハイジーン・アンド・トロピカル・メディスン（ロンドン大学）名誉教授、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン名誉教授、王立フレデリック大学名誉教授、インクルージョン&ダイバーシティ・アドバイザリー・ボード共同議長
- Helena Legido-Quigley 教授：シンガポール国立大学ソー・スイー・ホック公衆衛生学部准教授、LSHTM ロンドン・スクール・オブ・ハイジーン・アンド・トロピカル・メディスン（ロンドン大学）国際保健学講師
- Elizabeth Pollitzer 博士：Portia Ltd. 創始者兼取締役
- Londa Schiebinger 教授：スタンフォード大学科学史 John L.Hinds 教授、科学・健康・医療・エンジニアリング・環境学におけるジェンダード・イノベーション ヨーロッパ・アメリカ地域ディレクター
- Martina Schraudner 教授：フラウンホーファー研究機構・責任ある研究とイノベーション 所長、ベルリン工科大学組織におけるジェンダー・多様性教授
- 渡辺 美代子博士、日本科学技術振興機構副理事、日本学術会議副会長
- Tom Welton 博士、インペリアル・カレッジ・ロンドン持続可能な化学科教授、王立化学会会長代理
- Nieng Yan 博士：プリンストン大学分子生物学教授

エルゼビアの CEO である Kumsal Bayazit は、本報告書とインクルージョン&ダイバーシティ・アドバイザリー・ボードの設置について次のようにコメントしています。「過去数十年で研究界におけるジェンダーバランスには大きな進歩があり、今回のレポートが示す通り、世界的なジェンダー格差が狭まりつつあることは励みになります。しかし、ジェンダーの格差が依然として残っていることも示されており、研究における多様性とインクルージョンの問題に引き続き取り組むことが必要です。簡単に解決できる問題ではありませんが、持続的な変化を促進するため、研究エコシステムのあらゆる部分が連携し、進展に注力する必要があります。」

「インクルージョン&ダイバーシティ・アドバイザリー・ボードが設置され、国際的な研究および医療コミュニティの優秀なリーダーたちが集まり、ジェンダー、年齢、国籍を始めとする様々な壁を意識的に取り除くことで、学術研

究や応用研究に本来備わっている可能性をどれだけ解放できるか検証していくことを、とても楽しみにしております。」

「インクルージョン&ダイバーシティ・アドバイザリー・ボードはデータに基づいた洞察を通し、目標を絞った行動を促進し、また政策立案者に情報提供をする必要性や機会の特定を行います。諸財団や政府の他、研究における多様性の促進を通して科学・医療の発展に貢献する、というエルゼビアの目標を共有する世界中の機関など、すべてのステークホルダーと連携していきたいと考えています。」

編集者向けの注記

ジェンダーレポート関連情報は[こちら](#)（インフォグラフィック、国・研究分野別の詳細データを反映したインタラクティブな世界地図を含む）

エルゼビアのダイバーシティ&インクルージョン・アドバイザリー・ボードに関する詳細は[こちら](#)。

エルゼビアは、世界の研究におけるジェンダー多様性と平等を促進する取り組みを行っています。「[ジェンダーの視点から見た研究者のキャリアパス](#)」は、ジェンダーと研究をテーマとする3本目のレポートであり、2017年に公開されたエルゼビアのレポート「世界の研究環境におけるジェンダーの問題（[Gender in the global research landscape](#)）」を継ぐものです。国連の持続可能な開発目標5「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る」および、グローバルリサーチカウンシルの「女性研究者の平等と地位向上のための原則及び行動に関する宣言」へのエルゼビアの取り組みを反映しています。

エルゼビアについて

[エルゼビア](#)は情報分析を専門としたグローバル企業として、新たな発見、知識の再形成、人類にとって最も危機的な問題の対処に取り組む科学者や臨床医を支援しています。140年にわたり、研究者たちのパートナーとして、科学知識の集約と検証に尽力してきました。現在、そのこだわりを次世代のプラットフォームに伝承することに努力しています。エルゼビアは、戦略的研究管理、研究開発パフォーマンス、臨床意思決定支援、および専門教育の分野で、[ScienceDirect](#)、[Scopus](#)、[SciVal](#)、[ClinicalKey](#)、[Sherpath](#)などのデジタルソリューションとツールを提供しています。また、[The Lancet](#)、[Cell](#)を含む2,500誌以上の電子ジャーナル、39,000タイトルを超える電子書籍、および[Gray's Anatomy](#)を始めとする数多くの代表的な参考文献を刊行しています。エルゼビアは、専門家と企業のお客様に向けて、情報と分析サービスを提供する世界的プロバイダーである[RELX](#)の一部です。[www.elsevier.com](#)

<本件に関するお問い合わせ先>

APCO Worldwide 内（広報窓口） 盧（る）、納戸（のと）

Email: elsevierjapan@apcoworldwide.com / FAX: 03-6457-9703